

德島新聞

2009.5.27

子どもの思いに気付いてあげて



徳島大大学院ヘルスバイオ
サイエンス研究部

二宮教授が本出版

「増加する」方に向かひ、
「減少する」方に向かひ、
「心の問題」。一章は教科は
「大人への信頼をなくす」
た姿だと描寫する。
「子供が書いた回数は
書いた時などといふこと」
に文章や絵画の中などに
書かれていて、
その本筋の氣味や求め
る大人像が隠されてい
る。大人がもう少し、子と
もの言動や作品に敏感に
なって、それが子の心に
信頼されるための道筋
が、心に受け取られる
小児科医として、から
れる……（ふるかじいさん）
ンやソースを連携してい
た足あとがいくつある
子供と接してきた富
士吉が、診療室を、今まで歩み足あとを見
た経験で、本筋だけ診療室を、今まで歩み足あとを見

「子どもと信頼関係を築くためには、気持ちを聴くことが大切」と話す二宮教授=徳島大学病院

詩や作文に本音露れる

徳島大生研の「子と親のこころ診療室」で著長を務める、同大医学部ルクバーオサイエンス研究部の高橋良義教授が、「子どもに学ぶ（1）」との作品からのメッセージ（近大文芸社）を出版した。詩や作文などに腰いた子どもの思ひと氣分が、耳を傾けるひとの大切さを感じさせる。音楽教科だ。子ども心のアートケーションの取組方針も記載した。

訪れた一人の女の子やその母親とのカウンセリングのやりとりを筆に機械記録していく。小学生のど素朴な学校へ行かなくなってしまった

るもの／なんとか／こんなもの／なんとか／やめた
直園のものはめのれた
時分の作品のは、教
師や親、友人の対して
抱いた想い／女子自身
が、その思いと誠實に
向き合ふ様子がある。
「やがて自分の氣
持が次第にわかつた
と実感できはじめて行動
と感覚の統合である。原
因を探つた後、急いで答
つてしまふ。やがて未詮
えをためたりするのでは
なく、やがて話を聞く意識からえてほし
いに従事して。やうやく、
親はやがて、子と

する類や教師が多いか
については釋説と同じ。
しかし操作する力はない
ところも似たものだ。
「ヨーロッパ・シンドローム」など
これが大切」と書く。

The image shows the front cover of a Japanese children's book. The title '子どもに学ぶ(1)' is at the top, followed by '子どもの心からのおしゃべり' and the author's name '西村 勝巳'. Below the text is a large, stylized drawing of a smiling sun or face with large eyes and a wide mouth.